

同友会だより 号外 2016.7.17

— 在日韓国良心囚同友会からのご報告とお願い —

日頃より在日韓国良心囚同友会に温かいご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

皆様に来る 8 月 14 日、15 日にソウル市西大門区庁主催で行われる「独立民主の祝祭」並びに西大門刑務所歴史館における在日韓国良心囚の記録展示に関するご案内とご報告を申し上げます。

去る 6 月 17 日、その前日に韓国国会図書館講堂で開催された「金槿泰記念治癒センター開所 3 周年、2016 年国連国際拷問被害者支援の日」式典に参加した李哲、閔香淑、康宗憲、金元重は韓国良心囚を支援する全国会議の渡辺一夫氏、石井寛氏らとともに、ハムセウン神父、イファヨン人権医学研究所長らのご同行を得て西大門区庁にムンソクチン区庁長を訪問し、約 1 時間にわたって面談しました。

目的は昨年 9 月 1 日付でハムセウン金槿泰記念治癒センター理事長から西大門区庁長に宛てた文書「在日同胞人権被害者記念事業についての提案ならびに協力要請」についてあらためて趣旨説明と協力要請を行うことでした。昨年提出したその記念事業の骨子は、「在日同胞母国留学生を記憶する碑（仮称）建立事業」で「過去、権威主義政権下で不当にもスパイの濡れ衣を着せられ、（旧）西大門刑務所に投獄された在日同胞母国留学生たちの苦痛と母国愛を記念し、現西大門独立公園内の西大門刑務所歴史館の前に記念碑を設置する」という内容です。

李哲が刑務所歴史館では解放前の独立運動期やその後の民主化運動期における独立運動家、民主人士の歴史をパネルや写真等で説明し、見学する小中学生たちに歴史館員が説明している様子はたいへん感動的であるが、軍事独裁時期に少なからぬ在日同胞が母国留学や事業で訪れた母国で国家保安法、反共法等違反容疑で有罪となり、長い間獄中生活の苦労を経験したことについて一切揭示や説明がないことはとても残念であり、可能ならばささやかな形で記念碑を建て、歴史として後世に伝えたいと思う旨説明し、協力を要請しました。

これに対しムン区庁長は、趣旨はよく理解できるし、協力したいと思う。ただし西大門独立公園自体はソウル市の管理下にあり、また西大門刑務所歴史館は文化財に指定されていて文化財庁の一定の管轄下にあるため、敷地内に記念

石碑を建てることは西大門区庁の権限だけは難しい面がある。しかし、歴史館内部の展示に関しては我々の裁量で可能なので、在日同胞良心囚に関する展示スペースを提供することはできる。現在、建物の一部で民主化運動に貢献された方々の足形（レリーフ）などを展示している部屋（旧監房）がいくつかあるが、その一つを在日同胞良心囚の展示室として提供したいと思うがどうだろうか？という提案がなされました。

私たちはムン区庁長のこの逆提案に一瞬わが耳を疑うほど驚きましたが、仮に記念石碑が可能だとしてもそこに刻み込める文章はおのずから制限があることを考えれば、多様な手段で説明・表現が可能な展示室を使用させていただければどんなに良いか比較するまでもないことでした。私たちはこの重大さに身がすくむ思いでしたがこの絶好の機会を逸してはならないと、その場で提案を歓迎しました。早速 8 月 14 日の「独立民主の祝祭」に合わせた展示室オープンに向けて、ソウル側の準備を担当してくれる金槿泰記念治癒センター、人権医学研究所のイムチェド氏、キムヨンジン氏らと相談し、準備を開始することとしました。

その間、元在日良心囚だった人々や救援会関係の方々呼びかけて展示資料を提供していただき既に大部分ソウルに送りました。現在、作家のキムブロク氏や金槿泰先生の娘さんでキュレーターとして活躍しているキムビョンミンさんが中心的に展示の設計に当たってくれています。李哲は 13 日から 15 日までソウルを訪れて準備会議に参加しましたが、展示は私たちの既成のイメージからはだいぶ離れて斬新なものになりそうだという印象を受けて帰ってきたところです。

「独立民主の祝祭」の前夜祭にあたる 14 日夕方から西大門刑務所歴史館の広場でセレモニーが行われ、在日同胞良心囚の展示室の開室イベントが行われ、展示室が初公開される予定です。急に決まった展示会のため皆様方には今年オープン式に参加するのは難しいかと思いますが、いつでも展示していますので、韓国に行かれる機会にいつでも西大門刑務所歴史館を訪ねて頂ければと思います。

最後に、皆様に特別カンパのお願いを申し上げます。上記企画が急なことであり、十分経費調達の見通しのないまま準備が進んでいます。西大門区庁からも一定の金銭的支援が受けられそうですが、展示室に映像機器などを設置する場合かなり多額の費用がかかることが予想されます。在日韓国良心囚に関する展示ですので私たちの自力で展示会と今後の維持経費を負担しなければなりません。私たちは皆様にも負担にならない程度のカンパをお願いして、今後も継続するこの展示に共に参加頂くよう支援カンパをお願いいたします。皆様方のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします！